

問題【国語】

次の下線部を、カタカナは漢字に、漢字はひらがなに直しましょう。

1. コロナ禍
2. 人のうずに巻き込まれる。
3. 夕食になべ焼きうどんを食べる。
4. 庭で蝸牛を捕まえる。
5. かちゅうの人物にインタビューをする。
6. 無人駅をつうかする

豆知識 雑学コラム

「うず」「なべ」…漢字に苦戦？

一連のコロナ騒動で、「三密」や「ソーシャルディスタンス」など今まで目にかかることのなかった言葉を見る機会が多いですね。こうしたコロナに関する言葉の一つに「コロナ禍」があります。「禍」の字が読めなかったり、「渦」や「鍋」と勘違いして「コロナうず」や「コロナなべ」と読んでしまったりと読むのに苦戦をした方もいらっしゃるかもしれません。今回は「禍」の字についてみていきましょう。

まず、「禍」、「渦」、「鍋」に共通して使われる「𠂔」という字について考えていきましょう。「𠂔」はもともと関節を表す象形文字からできた文字です。関節は骨と骨の間の身体が回る部分ですよ。そこから「𠂔」には「回る、回転する、巻く」という意味ができました。「水が回転している」から「渦」、「いろいろなものをかき混ぜながら、回すもの」から「鍋」と聞くと納得できると思います。ちなみに、「蝸」は「うずを巻いている虫」で「蝸牛」はカタツムリ、「萑」は「うずを巻いている草」で「萑苳」はレタスという意味になります。

次に「禍」に使われる「しめすへん」について、「しめすへん」の漢字と言え、どんな漢字を連想しますか。「神」、「祈」など「天にいる神様」に関わる字が多いですよ。

このように「しめすへん」は天の神様が示すことを意味しています。このように成り立ちを見てみると「禍」は「神様が与えた人間を巻き込む試練」という意味だと理解できます。「禍」には「わざわざ」という読みもあり「禍を転じて、福となす」と使うこともありますよね。つまり「コロナ禍」は「コロナが生んだわざわざ」という意味だということになります。

さて、意味が分かったところで、今度は読みについてみていきましょう。「禍」のように読みがわからないときにはどうやって調べればよいのでしょうか。読みがわからないときには、「旨」「指」「脂」のように同じ部分が入っている漢字を連想しましょう。「旨」「指」「脂」が全て「シ」と読むように、同じ部分が入っているとその部分の読み方を表すことがあります。「禍」の場合、「通過」の「過」や「渦中」の「渦」から「𠂔」が入っていると「カ」と読むことが分かり、「コロナか」と読むことができます。

緊急事態宣言が解除され、少しずつ日常生活が戻りつつあります。早く「コロナ禍」が過ぎ去った「コロナ過」の社会になってほしいものですね。

【解答】

1. (コロナ)か
2. 渦
3. 蝸(ぎゅう)
4. かたつむり
5. 渦中
6. 通過